

大川原とは…大川原は福島県大熊町にある地区です。町は、2011年3月の東日本大震災に伴う原発事故により全町避難を余儀なくされました。2019年4月にこの大川原地区と中屋敷地区の避難指示が解除されました。さらに2022年6月には下野上地区など町内的一部で避難指示が解除され、住民が日々の暮らしを再開しています。

発行：大熊町大川原LIFE編集部 問合せ先：mirai@town.okuma.fukushima.jp

大川原のアレコレ 伝えること4年半 今回が最終号です！

こんにちは^手 今回、まずお知らせがあります^{マイク} 2019年10月に始めた大川原LIFEは、この54号をもって終了します！ 町の一部避難指示解除後「大熊に暮らすってどうなの？」という疑問に、住人の目線で応えてみようと始めた大川原LIFE 4年半が経ち、私たちにとって大川原での生活は、当初の「意外と普通」から、本当の「普通」になっています^{ハート} また、町で暮らし、働く人が増え、さまざまな方々が町の様子を発信しています^{スマートフォン} 「暮らせる大熊」は、もはや多くの方にとて未知の世界ではなくなった今、大川原LIFEも当初の役割を全うできなかなと感じています^{ハート} 最終号となる今回は、第1号を振り返り、町の変化を私たちなりに紹介したいと思います^手

＼ 上空から見た大川原の復興拠点！／



住んでいる人は
共感する！？

大川原あるある 気になるその後は？

みなさん、創刊号にて紹介した「大川原あるある」を覚えているでしょうか？あれから4年半経った現在どのように変化したかお伝えします！

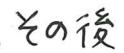
① 買い置きは必須！



当時の商業施設は仮設店舗でしたが、交流ゾーンが完成して品ぞろえも充実^{ハート} 生鮮食品がコンビニで買えるのがうれしいですね^魚 営業時間も延びたので以前よりぐっと便利になりました^{ハート}

② 平日の夜は

宅飲みで決まり！



交流施設の飲食店が、夜は居酒屋として営業しています^{クラシック} 最近では月に1回、出張Barも開催 オシャレなカクテルが大川原で飲めるようになりました^{ハート} そのほかジムで体を動かしたり、ゆめの森のアリーナを借りてスポーツをすることもできるようになりました^{バスケットボール} 汗をかいたあとは、ほっと大熊でお風呂&サウナも楽しめちゃいます^{スイミング}

③ 街灯が少ない！



以前に比べて明かりが増え、夜道も歩きやすくなったように感じます^{電球} 個人的には常磐道から見える公営住宅の夜景が好きです^{ハート}

④ 野生動物との遭遇！



山のほうで「サガサ」と音が聞こえても、人前に姿を見せることはなくなりました^{ハート} この数年で動物と人との棲み分けができた気がします！ですが、熊の目撃情報もあるので熊鈴は持ち歩くようにしています^{ハート}

この4年半を振り返って…



佐 藤

この4年半、一度も休刊することなく書くことができて自分でもびっくりしています！個人的に気に入っている記事は、2021年6月号で紹介した双葉郡内のお酒飲み比べ。当時のメンバーで手分けしてお酒を購入し、品評会をした夜がなつかしい！大川原の暮らしとは少し違う視点で書いた記事だったのに“特に印象に残っています♪”あとは先月号の利岡さんを取材した記事、いつか書きたいなと思いつばがらなかばかタイミングが合わなくて…仕上がった記事を見て、大川原LIFEにふさわしい良い内容だと自画自賛しました（笑）改めて大川原にはこんなに紹介できるネタがあるんだなとしみじみ。書いていて楽しかったよ～♡

第8号で「少しすつひとつが戻るまち」と書きました。ちょっとした日々の変化に驚きや感動を積み重ねて4年半。何が「ひとつ」かは人それぞれですが、私は今、大熊で普通で地味な生活をしています。もはやあの頃のような新鮮な感動は少くなりましたが、住んだ時間分、この日常への愛着は増しています。

町職員有志でつくるLIFEは、同僚の新たな魅力を知る機会もありました。佐藤さんがこんなにイラストと文字が上手だったなんて！好きに書かせてもらい、お叱りをいただくこともあらがなあ……と覚悟していましたが、遂に多くの励ましをいただきました。こんなに皆さんに温かく見守られている実感をもって仕事をできること、なかなかありません！大変だったけど、幸せなLIFEでした。



喜 浦



こちらのQRコードから過去の記事が読みます！

大川原LIFEは今回で終了しますが、大熊町では避難指示が継続している地域も、これから生活基盤が整備されていく地域もあります！どうぞ今後とも大熊町の変化に注目ください♪

I ❤️ Okuma



4年半、ご愛読ありがとうございました